

岡崎市議会議長

様

支出番号

会派名 チャレンジ岡崎・無所属の会

代表者名 杉山 智騎



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

令和 1年 11月 05日提出

活動年月日	令和 元年 10月 30日 (水) ~令和 元年 10月 31日 (木)	
氏名	江村 力、杉山 智騎、小田 高之	
用務先 及び 内容	1 10月30日	用務先 東京都江戸川区
		内容 こども未来館について
	2 10月31日	用務先 東京都千代田区
		内容 農業参入フェア2019東京
	3 月 日	用務先
		内容
	4 月 日	用務先
		内容
備考		



政 務 活 動 旅 行 報 告 書

1 視察日

令和元年10月30日（水）～31日（木）

2 視察者

江村力 杉山智騎 小田高之

3 視察先

東京都江戸川区 千代田区

4 視察項目

東京都江戸川区 こども未来館について
東京都千代田区 農業参入フェア2019東京

5 視察目的

本市のこども科学館建設の参考とするため
本市の農業に企業が積極的に参入するための参考とするため

6 視察内容

(1)東京都江戸川区 こども未来館について

□江戸川区の概況

江戸川区は東京の最東端で、西に荒川・中川、東に江戸川・旧江戸川、南には東京湾を臨む三方を川と海に囲まれている。公園面積の広さや街路樹の数は23区一を誇り、全国初の親水公園とともに、水と緑豊かな街を創出。また、平均年齢が若く、活気に溢れるまちである。

長期計画「えどがわ新世紀デザイン」の折り返しとなる2012年に後期基本計画を策定、今後10年間の環境変化に対応するため、重要課題8項目を重点施策として掲げている。2017年度は、いわゆる「子どもの貧困」への対応を含む子供の成長支援を重点的に行い、学習支援や相談体制、母子保健の充実を図るとともに、食事の支援にも力を入れている。また、医療・介護・住まい・介護予防・生活支援を一体的に提供するため、「地域包括ケアシステム」の拠点となる「なごみの家」を16年に3箇所開設し、17年4月に4箇所目を開設している。



□子ども未来館の概要

子ども未来館は、共育・協働の理念に基づき、子どもが科学や自然、地域歴史等を専門的、継続的、体験的に学ぶ場を提供し、未来を担う創造性豊かな子どもを育成するため、平成22年度に設立された。単年度総事業費は47,137千円である。

(特色)

類例のない展示型の施設運営ではない事業展開、ライブラリー（区内初の子ども専門図書館）とアカデミーの二つの機能を持ち、両者を一体的に運営。アカデミーは、子どもの知的好奇心を刺激する多彩なプログラムを実施。学ぶフィールドは、区内全域から各地まで。あらゆる地域資源を教材とし、大学、企業、NPO等の専門講師のほか、知識・技能を有する区民の方々の協力を得て、子供たちの多種多様な学習要求、また、学校教育ではできない探究活動の場を提供している。

(フロア)

1階 子どもライブラリー

幼児や小学生のための図書館でおよそ4万冊もの本がある。紙芝居、絵本、知識の本、物語の本、外国のお話の本、調べ物の本、または、保護者向けの子育てについての本などもある。特に、2階のアカデミーで追求した課題を調べるコーナーも設置してある。

2階 子どもアカデミー

学びの広場・・・調べ学習ができるスペースであり、子どもアカデミーが開館している日は自由に使用が可能である

展示コーナー・・・プログラムの活動紹介、パネルやいろいろな生き物が展示してある。

コース室1・・・理科系のプログラムでよく使用している。顕微鏡など実験器具がたくさんあり、学校の理科室のような環境である。

コース室2・・・ものづくり系のプログラムでよく使用している。学校の図工室のような部屋である。

・多目的室・・・子ども未来館で一番広い部屋であり、三つに分けることもできるので、コース3、コース4、多目的室として使用することができる。

ベランダ・・・夏はゴーヤを育てて、緑のカーテンを実施している。

・屋上・・・ソーラーパネルや風力発電用の風車、雨水を利用するための雨水タンクを設置している。屋上菜園では、季節の野菜をプログラムに参加している子供たちが育てている。

(活動)

子ども未来館の活動中心は、「ゼミ」である。一つのテーマについて、1年間を通じて、6回から12回程度かけて取り組む、連続プログラムである。それぞれのゼミは続けて参加することで、好奇心を育み、主体的に考える力がつくように構成されている。「ミクロの世界を歩こう」「ガリレオって何を発見したの」「私の音ってどんな音」「科学が解き明かす人の進化」「21世紀のダーウィンになるう」「翼のヒミツ」「大空のミカタ」「屋上農

園サイエンス」など魅力ある21のゼミが開設されている。尚、夏休み、冬休みには短期のゼミも開設されている。約200名のボランティアの方が無償で講師を勤めている。

(2)東京都千代田区 農業参入フェア2019東京



□概要

東京国際フォーラムで開催された「農業参入フェア2019」は、農林水産省が主催で農業参入を目指す企業、個人を対象としたものでした。会場は先進的な取り組みを行う企業や個人の事例紹介、農業法人誘致を積極的に行う自治体、団体のブースの設置。また日本総合研究所調査部主席研究員、日本政策投資銀行地域企画部特別顧問、地域エコノミストであられる藻谷浩介氏による講演がおこなわれ、狭義の対象者だけではなく、広く農政に興味をもつ個人、団体でも有意義なフェアでした。

□特色

講演の冒頭では農水省の担当官、そして藻谷氏によるビジネスという視点からみる農業の位置付けが説明されました。国のほうでは、農業法人の新規参入にたいし大規模な規制緩和をおこなったこと、おこなおうとしていることが農地法を中心に説明がありました。また藻谷氏からは、市場規模が大きい農業において、大切なことは今後増加するリッチなシニア層をターゲットにした商品、流通の開発。また、公付加価値の農産物を低コストで生産することが、今後の新規参入においては重要であると指摘がされていました。また会場内に設置されたブースでは地方自治体が企業誘致をおこなうなど、農業にたいする積極的な姿勢を垣間見ることができました。

7 岡崎市への提言

□こども未来館について

子どもの夢を大切にする本市の市政において、子ども科学館の建設は、子ども、教師、多くの市民から待ち望まれている。建設にあたっては、江戸川区の子ども未来館のように、展示中心ではなく、「ゼミ」を中心とした体験的、活動的であるべきであることを痛感した。教育文化の薫りの高い本市なら、200名以上の講師ボランティアが集まることだろう。

□農業参入フェア2019東京

農業にたいする新規参入はそれを支援する中間支援団体をうみ収益を生み出すなど、既存の団体、方式とはことなる動きが活発化している。まずは情報はやくキャッチアップし、動向に敏感になることが今以上に必要だと感じます。